

第80回（令和7年2月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

わたしたちの暮らしにおいて、手紙を送る機会は少なくなっています。メールでのやりとりが主流になり、簡単で気軽に連絡が取れるようになったことで、わざわざ手紙を書かなくてもよいのではないかと思う人もいるでしょう。確かにメールはとても便利なものですが、お礼やお祝い、あいさつなどの折に、少し手間をかけて思いをしたためてみませんか。自分の字で一文字ずつ丁寧に書いていく手紙は、気持ちまで一緒に届けてくれる気がします。

手紙には、封書やはがき、カードなどといったように、さまざまな形式のものがあります。どれを使用するのがよいのか、選ぶ際に迷ったことがある方も多いのではないのでしょうか。まずは、それぞれの形式の使い分けを知っておきましょう。一般的に正式なものとしてされているのは封書です。はがきは、手紙の略式と考えられているので、おわびを述べたりあらためて依頼ごとをしたりといった重要な場面や、目上の人に送りたいときには、封書を用いる方がよいでしょう。年賀状や暑中見舞いといった季節のあいさつ状は、目上の人に宛てる場合でもはがきを用います。

他にも、手紙を入れる袋である封筒にも気を付けることがあります。住所などを書くとき、どの位置にどれくらいの大きさを書けばいいのか、切手はどこに貼ればいいのか迷ったことのある人もいないのでしょうか。住所を書く前に、まず相手の名前を中央に書くと、バランスが取りやすくなります。そして企業に宛てる場合は会社名などを略さず、必ず正式名称で書きましょう。切手については、縦長にしたときに左上になるように貼ります。これは郵送物を自動で読み取る機械で、スムーズかつ正確に仕分けるためです。送るものが横に長いものであれば、右上部に貼るようにしましょう。では切手の数はどうでしょう。郵便料金によっては1枚では送れないことがあるかもしれません。実は、枚数に制限はなく、どれだけ貼っても問題なく届きますが、マナーとして受け取った側が不快に思わないように心掛けることが大切です。特に、ビジネスの場合は、余ったものを寄せ集めたようだとと思われるまいように気を付けましょう。また切手には、季節のイラストをあしらったものや地域限定のものなど、さまざまなデザインがあるので、送る相手のリアクションを想像しながら選ぶのも楽しいひとときです。ただし、中には使用する目的が決まっている専用の切手もあるので、注意しましょう。

書くときに用いる筆記用具に凝ってみてもよいかもしれません。例えば、文字の抑揚が表現できる万年筆は、文字の美しさが際立ちます。他にも、普段はあまり使わない筆ペンに挑戦してみたり、親しい間柄の人に宛てる際にはカラーペンで表現したりしてもよいかもしれません。ただし、鉛筆やこすると消えるペンなどは、書いた文字が簡単に消えてしまうので避けた方が無難でしょう。

これはメールでも同じことがいえますが、相手を思いやる気持ちが最も大切です。受け取った人がどんな気持ちになるのか、これを読んで喜んでもらえるのかなどを想像しながら心を込めて書くことで、きっと気持ちの届く手紙になるのではないのでしょうか。

世の中には、自分の声を使った仕事はたくさんあります。その中でもアナウンサーは、

テレビやラジオなどを通じて、世間で起こっていることや最新情報について伝えることを仕事としています。	1, 389 1, 399
その領域は報道番組にとどまらず、バラエティー番組での司会や、現場でのリポートなど、多岐にわたります。基本的な仕事は、取材記者が書いた原稿を決められた時間内に読み上げるというものですが、ただ単に棒読みしているだけでは視聴者に伝わりません。どの部分が最も大切で、どのようにしたら伝わるのかを考え、それによって読むスピードやトーンを変えたり、抑揚を付けたりして話さなくてはなりません。時には、自ら現場で取材をすることもあります。また、討論番組では司会をすることがメインですが、ただ台本を読むだけではなく、問題の核心に迫ったり場を盛り上げたりすることも必要です。さらに、スポーツの実況中継を担当することもあります。そこにはあらかじめ決められた台本や原稿はないので、刻々と変化する様子を視聴者に分かりやすく、解説も交えながら正確に伝えなくてははいけません。このように、臨機応変な対応が求められる仕事も多くあるので、普段からさまざまな知識を吸収する必要があります。アナウンサーと聞くと、華やかな印象を持つ人が多いかもしれませんが、見えない所での地道な努力や、苦労があるのです。	1, 439 1, 479 1, 519 1, 559 1, 599 1, 639 1, 679 1, 719 1, 759 1, 799 1, 839 1, 879 1, 883
このように、仕事内容はさまざまに変化に富んでいますが、どのような立場にあっても明瞭で聞き取りやすい発声と滑舌が求められます。また日本語は、発音が同じでも、意味の異なる言葉や発音が難しいもの、聞き慣れない固有名詞などがたくさんある他、地域によって方言があります。そのため誰もが分かる標準語を身に付けることはもちろん、誤解を招かないように文脈やアクセントを押さえながら読むことが大切です。また、出演者や取材対象者などの気分を害することがないように、言葉を選んで発言しなくてははいけません。さらに、与えられた情報を簡潔にまとめ、視聴者に分かりやすく伝える技術が求められる他、番組進行において、相手との円滑なコミュニケーションを図る能力も欠かせないでしょう。	1, 923 1, 963 2, 003 2, 043 2, 083 2, 123 2, 163 2, 203 2, 209
この仕事に就くために必要な資格は特にありませんが、多言語を習得しておくことで仕事の幅は広がるでしょう。広範囲な分野において正しい知識を持つことや臨機応変に対応できる力が必要となるうえに、担当する番組の時間帯に合わせた生活周期になるため、時には不規則な勤務になることがあります。そのため、人並み以上の体力と自己管理能力も欠かせないでしょう。大学や専門学校などを卒業した後、放送局の入社試験に合格して正社員として働くのが一般的な流れです。	2, 249 2, 289 2, 329 2, 369 2, 409 2, 428
最大のやりがいとは、何ととっても、自分の声と姿を通じて視聴者に感動を与えることができる点ではないでしょうか。また良い番組が出来上がったときには、大きな達成感を得ることができます。人気が高く、競争率がとても高い職業ですが、自分の声を仕事にした人なら、挑戦してみる価値のある仕事なのかもしれません。	2, 468 2, 508 2, 548 2, 576